

# 環境マネジメントシステム ISO14001 2013年度 活動報告

■ 2014年5月31日 発行 ■



登録日：2003年5月14日



理事長 竹内康博

中四事業連合は、2003年5月14日にISO14001を取得しましたので、今年で11年を迎えることになりました。この間、3年をI期としてきましたので、すでにIV期目の中盤に入ったこととなります。今年は3月19日、20日の両日、松山事務所と大阪事務所におきまして、「日本環境認証機構」の明翫和紀氏の厳格な審査を経て、事業連合の環境問題全般にわたり点検が行われました。審査結果は「組織のマネジメントシステムは、規格要求事項に適合し有効に実施されていると判断し、認証の更新を推薦します」との結論をいただきました。この10数年間、事業連合は環境問題を組織の重要な取り組みとして位置づけ、多くの生協職員や学生・教職員に支えられ、今日までこの問題に真剣に取り組んできました。この取り組みが、「日本環境認証機構」によって、11年間断絶することなく適合してきたことは、事業連合として誇って良いことではあります。今後の環境問題を考えると、「これで十分」とするわけにはいきません。学生の皆さんにも今以上に環境問題を自分のこととして考えていただくと同時に、教職員や生協職員も共に考え行動する組織として、環境活動をもう一段引き上げていただきます様、ご協力をお願いいたします。

つながる元気、ときめきキャンパス。



生活協同組合連合会  
大学生生活協同組合 中国・四国事業連合

## 環境方針

中国・四国事業連合は、中四国9県の会員生協を対象に、商品の企画、開発、共同仕入れ等の商品活動に加え、システムの開発、総務機能の委託業務、共通の事業政策の立案など業務の支援を行ない、それらを通じて大学における教育・研究活動に貢献し、そこで生活する全ての人の豊かな生活の実現をめざしています。

私たちは、環境保全活動が大学生協の事業と組織活動の基礎的取り組みの重要な課題の一つと認識し、事業と活動、製品及びサービスにおける環境負荷低減に責任を果たす立場からその環境への影響の大きいものについて、技術的かつ経済的に可能な範囲において、目的・目標を設定し、その目標等を定期的に見直すとともに、その実行システムである環境マネジメントシステムを運用・向上させ環境パフォーマンスの継続的改善を図ることにより汚染の予防を図ります。

1. 商品仕入にあたって環境負荷軽減のための選定基準を定め、会員生協に提案することによって組合員への環境対策商品の提供を積極的に勧め、グリーン購入の促進にも貢献します。
2. 商品活動上、店舗における仕入活動の改善と物流業務の改善の仕組みを検討し、改善した仕組みを確立させることによって、物流量削減による化石燃料の消費削減や有害ガスの排出抑制、使用紙の抑制に貢献します。
3. 化学肥料、農薬使用削減のための食材仕入について、その実態の調査、仕入選定基準の確立、手配先の開発を進め、選定基準に基づく採用率を持続的に拡大します。
4. ①飲料容器利用のあり方改善のための商品開発や組合員への行動提起、②調理後・食後の残飯堆肥化の仕組み作りや水質改善対策についての「調査・研究」を進め、会員生協、組合員や関係する取引先企業への提言・要請事項としてまとめます。
5. 当事務所において使用する紙及び電気の削減、廃棄物の削減と古紙のリサイクルを推進し、鉱物資源、植物資源の枯渇抑制と廃棄物排出抑制に貢献します。
6. 中国・四国事業連合に加入する会員生協の組合員に対して「パーソナルEMS」の規格を提案し、それを実行する組合員を持続的に拡大し、環境活動を進める学生を社会的責務として育てます。

法規制、条例、その他受け入れを決めた要求事項を遵守します。また、内部監査を実施し、自主管理による環境マネジメントシステムを確立し、その維持向上に努めます。環境マネジメント推進組織を確立し、その基本文書を作成、保管します。また、環境方針を内外に公表し、これにもとづく組織内の教育、啓発活動を行い、組織で働く又は組織のために働くすべての人に周知・徹底します。

『 環境方針は、中国・四国事業連合内外に広く公表します。 』

生活協同組合連合会  
大学生協同組合中国・四国事業連合  
理事長 竹内 康博

## 第四期 2013年度のふりかえりと2014年に向けて

### ■ はじめに～中国・四国事業連合EMSの特徴

- ・ 中国・四国事業連合は、2002年9月に環境マネジメントマニュアルとプログラムに基づいた運用管理をスタートさせ、2003年5月にISO14001を認証取得して以来、事業年度として11年、第4期2年目が終了しました。
- ・ 中国・四国事業連合の環境方針は、その準備の過程でオフィスの紙・ゴミ・電気の削減だけでなく、事業連合という組織の機能と事業課題にも環境の取り組みを反映させるために、18の会員生協にも影響する「環境対策商品の提供」「物流量削減」などから「パーソナルEMS」の提起まで含めた、新しい積極的な方針が設定されています。

### ■ 6つの方針ごとのふりかえりと課題

- 1、方針1の「仕入にあたっての環境負荷軽減」の課題について包装資材は会員生協のノー包装の呼びかけ等を継続しています。評価を単純な前年対比ではなく客数増減との関係でも評価していく方法を検討しています。さらにノー包装時にICカードにポイントを付与できるシステムを運用しています。
- 2、方針2の「物流量削減による化石燃料の消費削減や有毒ガスの排出抑制」の課題では、教科書販売における追加発注や返品数増加により発生する、輸送に対する環境負荷の軽減を実行しています。従来までのテキスト返品率から、受講者数に対する教科書の販売数量の割合である購入比率を増加させることで、環境負荷の削減を行います。  
自家製弁当構成比は目標75%以上に対して83%に達しました。内製化率の向上と栄養バランスがとれ、選食力を養うためにショップとフードサービスグループで協力した「3・1・2弁当」は2年目を迎え現在9会員16店舗で販売し好評です。研究機器展示会用のデモ機の共同配送・長期貸出しは継続して取り組みました。食材在庫は西大寺センターに一元化され管理しやすくなりました。しかし新制度になりまだ軌道に乗っておらずクレームが多発している状況にあります。早急の対策改善を要請するとともに次年度の大きな課題となっています。
- 3、方針3の「化学肥料、農薬使用削減のための商品活動」の課題では、国産肉使用・地産地消・減農薬など推進しました。魚食材、岡山産SPF豚肉、国産鶏モモ肉、中国・四国のご当地メニュー、栽培方法が明確な旬の生鮮野菜を使ったメニュー等を実現しました。次期も地産地消で日本農業を育む食育ミールプランの取り組みと重ねながら、さらに重点を明確にして取り組みます。
- 4、方針4の「飲料容器の利用改善・食品廃棄提言・水質改善」の課題では、食堂メニュー配信通りに不足なく食材も調達できました。食品の廃棄低減や残渣リサイクルなどは、今後の実践に課題を残しています。
- 5、方針5のオフィス系紙使用量削減・ごみ・電気の分野では、業務拡大や活動の活性化と相まって紙使用枚数においては昨年からの目的目標からはずし、目的別・個人別のカウント管理、削減のための手順は継続しました。月1度の環境管理委員会ではiPadを用いてペーパーレス会議を開催しています。累計936枚削減しました。電気使用量削減に関しては引き続き社内節電運動をしていましたが、今シーズンは例年以上の猛暑と寒冬さにより電気使用量が増える結果となりました。次期もこの課題を掲げて、更に少しずつでも軽減を進めます。
- 6、パーソナルEMSは、食育ミールプランとマイページという課題を明確化し、ミールカードの普及が進み、組合員約10万人中2万人近くに広がりました。また、10年を経たミールカードシステムを振り返り5万人ホルダーを目指す新たな取り組みが始まっています。

### ■ この間の取り組みの特徴点

- 1、EMS専任の専門職員を配置し、日常的な運営が画期的に強化しています。月1回の環境管理委員会での情報共有や進捗状況の点検、課題の検討がスムーズに行われるだけでなく、その内容がすぐに改善・実施され、職場全体の取り組みの強化につながっています。
- 2、その中で方針、マニュアルや帳票の改善も進み、テキストの作成や職員の環境教育も進んで、EMSの運営が充実してきました。

### ■ おわりに

この11年間のEMSの取り組みと成果を通じて、環境問題の解決は持続可能な社会を目指す取り組みと一体不可分なものであり、一回り大きな視点から組織の理念を体現する方針の必要性の議論を始めました。この方針を発展させる立場で、業務と環境の一体運営をさらに進め成果を上げます。そしてこの取り組みを会員生協に大きく広げたいと思っています。

2014年3月1日 環境管理責任者（山本常務）のあいさつより

## 2013年度の目標に対する到達状況〔1〕

【環境方針1-①】組合員利用や大学納品の取扱商品のうち、環境負荷の少ない、COOP 文具の利用割合を増加させる。

2012年度 COOP 商品構成比 35%  
↓  
2013年度 COOP 商品構成比 36%目標

2013年度 COOP 商品構成比目標 36%⇒実績 32.35% 目標との関係では年々COOP 比率が落ちており達成できない状況が続いている。且つ、積極的に新商品を導入すればするほど比率が落ちるため、次年度は絶対数（利用点数）の目標に変更予定。

【環境方針1-②】使い捨て包装資材の使用の抑制のために、ノー包装運動や使い捨てタイプから何度でも使えるマイバッグの利用への切り替えと利用促進活動を組合員に対して行います。

新規店舗を除いて、枚数ベース前年維持を実現する。

前年対比 9700 枚増。香川大学館ショップ/広島大霞ショップの仮設店（食堂閉店）営業で、弁当利用増。約 13000 枚増加。

【環境方針1-③】大学の学生証・職員証と生協組合員証の一体型カード発行を行いません。

14年春に新規の非接触ICカード発行が全生協で導入されている。導入校でのコピーカード、プリントカードの使用を5%削減する。

コピーカード 28.3%削減

【環境方針2-①】教科書販売では、販売開始時に必要な数量が揃っていることが重要です。必要数がなければ、追加発注や、返品数が増えてしまい、その輸送に対する環境負荷を増大させます。よって、受講者数に対する教科書の販売数量の割合である購入比率を増加させることで、環境負荷の削減を行います。

全体として、受講者を分母とした、購入率を把握できていないというのが現状です。  
1、受講者把握ができないところは、まず把握する。  
2、把握ができているところは、春で7割、秋で5割を当面の目標にする。

昨年からの変化では、松山大が、購入率を 76.3 から 84.9 と 8.6%も購入率をあげています。松山大は事前入金とWEBでの教科書受注をここ2年取り組んでおり、購入しやすさの追求を行ってきた成果が出ています。登録受講者数は松山、岡山、愛媛が把握できた。その平均の購入率は 85.6%。昨年は 80.3%だったので、5.3%の購入率UPとなった。

【環境方針2-②】自家製米飯商品を強化し、供給構成を高めることで、

- ① 外部からの物流による環境負荷を軽減する。
- ② 容器等の廃棄を減らし、回収活動によりリサイクルを推進する。

- ①自家製弁当構成比75%以上
- ②3・1・2 弁当の通年展開とシェア拡大。
- ③容器回収の推進。年間目標 30%以上。

- ① 自家製構成比 83%
- ② 9 会員 16 店舗での 3・1・2 弁当の提供。
- ③ 容器の年間回収率 38%

## 2013年度の目標に対する到達状況〔2〕

【環境方針2-③】店舗展示会開催に関し、発生するデモ機の移動に関わる燃料・梱包材などの削減のために、共同配送・長期貸し出しをメーカーに協力・要請を行い、燃料などの削減をします。

2012年度までの実施を見直し実施  
無理の無い計画立案  
配送ルート・配送商品を見直し。



展示会配送を、配送業者一括に集中し、納品/引き上げを一括管理に変更し、メーカー個別持ち込み以外は一括配送に変更。

【環境方針3-①】ヘルスフードの提供による健康的な食生活の普及。

旬の野菜を使った新メニュー  
各クール2アイテム投入



第1クール（スナップえんどう・春キャベツ）第2クール（トマト・茄子）第3クール（里芋・れんこん）第4クール（小松菜・ブロッコリー）  
上記の旬の野菜を使用した新メニューを提供しました  
（例・春キャベツとじゃがいものコンソメスープ・茄子とゴーヤの味噌炒め・豚肉と季節野菜のクリームシチュー他）

中国・四国の特産品、食材を使用した  
メニュー副食メニュー3品開発



カキフライ・今治せんざんき・大山おこわ・豚肉と冬野菜の甘味噌炒めの4品を提供しました。

豆を使った健康メニューの開発



ミックスビーンズとあさりのスープ・ベーコンと野菜の豆乳クリームスープを提供しました。

3・1・2弁当の定着をはかり、学生のみならず教職員への普及も検討します。



2月ショップ店長会議で3・1・2弁当メニュー試食会。ショップ店長との意見交流、メニュー容器の改善課題の確認を行った。

【環境方針3-②】国内、地元食材を活用し使用を増やします。

主力食材の品質向上  
●豚うでもも肉 SPF 豚肉に再度切り替え検討  
●国産鶏もも肉使用「鶏ポン唐揚げ」5月と10月に実施。

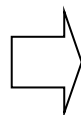


SPF豚肉、ウデ肉とモモ肉の配合を1：9から、5：5に変更して、欠品を防止。13年度1年間継続して使用した。

## 2013年度の目標に対する到達状況〔3〕

**【環境方針3-③】** 栽培方法や産地、生産者のわかる野菜及び、減農薬・地場産野菜の使用を増やし（45品目）、組合員に安心安全な食を提供します。

目標：年間で、クール別に旬の野菜産地や栽培方法が明確な、生鮮野菜15品目、国産冷凍野菜5品目以上の使用を計画します。



累計国産生鮮野菜 18 種、国産冷凍野菜 6 品目を提供しました。

クレーム対応を通じて、品質の維持向上を図る。



クレームの受付、資料化の事務作業が出来た。実際の対応、実効的防止対策は今後の課題です。

**【環境方針4-①】** 食材仕入れや食堂運営に関わる環境負荷を低減します。

目標：食品の廃棄を低減し、環境負荷を軽減します。



年度末の残在庫（店舗への半額送り込みなど）処理を実施。

**【環境方針5-①】** 紙使用量の削減テーマを毎年1つずつ実現。

目標：ZKシステムの概要・機能を提案する中で作業を効率化すると同時に紙の使用量を減少させる。



2月末決算に向けてZKシステムの検証、消費税率アップに向けての対応を準備し、進めた。

**【環境方針5-②】** 電力使用量を2011年度対比6%削減する（3ヶ年計画）  
電力（電灯）、動力（空調）共。

目標：電力使用量を2011年度対比2%削減する。  
電力（電灯）、動力（空調）共。



年累計 電灯-0.9%、動力+9.9%

## 2013年度の目標に対する到達状況〔4〕

### 【環境方針6-①】 全員ミールカードを推進し2万人に普及する。

目標：「ミールカードの発展方向」にもとづいた、ミールカードシステムを開発し、2万人への普及を目指します。



19300人に普及しました。

### 【環境方針6-②】 食育サポート活動の発展

食育サポート研修は新学期交流会で年1回実施します。



新学期交流会(7/21-22)で講演会実施。  
講師は食農教育 中尾卓嗣氏

ホルダー間のコミュニケーション、食と健康情報の提供の在り方などを検討します。



デジタルサイネージによる情報提供を計画中。

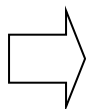
### 【環境方針6-③】 料理体験や生産現場の体験を通じて、食の構成要素や循環の意味がわかるようにする

産地、工場訪問年間計画  
産地、工場見学会への参加（店長、組合員）



産地、工場訪問の日程がとれず行けなかった。  
次年度の3月にハヤシライスソースの製造工場（青森県）を訪問しました。

「高木が行く」を正式宣伝物にし年2回以上発行する。多様な活用方法を検討。



年2回発行できず1月の食材「八幡浜ちゃんぽん」版の1回だけ発行しました。

## 今期の環境目的（2012～2014年）

環境方針	環境目的（～2014.3）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 組合員利用や大学納品の取扱商品のうち、環境負荷の少ない、COOP 文具の利用割合を増加させる。</li> <li>② 使い捨て包装資材の使用の抑制のために、ノー包装運動や使い捨てタイプから何度でも使えるマイバッグの利用への切替え等の活動を行う。</li> <li>③ 大学の学生証・職員証と生協組合員証の一体型カード発行を行なう。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科書販売では、販売開始時に必要な数量が揃っていることが重要です。必要数がなければ、追加発注や、返品数が増えてしまい、その輸送に対する環境負荷を増大させます。よって、受講者数に対する教科書の販売数量の割合である購入比率を増加させることで、環境負荷の削減を行います</li> <li>② 自家製米飯商品を強化し、供給構成を高めることで、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部からの物流による環境負荷を軽減する。</li> <li>・ 容器等の廃棄を減らし、回収活動によりリサイクルを推進する。</li> </ul> </li> <li>③ 店舗展示会開催に関し、発生するデモ機の移動に関わる燃料・梱包材などの削減のために、共同配送・長期貸し出しをメーカーに協力・要請を行い、燃料などの削減につなげる。（一筆書きの配送）</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ヘルスフードの提供による健康的な食生活の普及</li> <li>② 国内、地元食材を活用し使用を増やします。</li> <li>③ 栽培方法や産地、生産者のわかる野菜及び、減農薬・地場産野菜の使用を増やし（45品目）、組合員に安心安全な食を提供します。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 食材仕入れや食堂運営に関わる環境負荷を低減します。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 紙使用量の削減テーマを毎年1つずつ実現</li> <li>② 電力使用量を2011年度対比6%削減する。電力（電灯）、動力（空調）共</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 全員ミールカードを推進し2万人に普及する</li> <li>② 食育サポート活動の発展</li> <li>③ 料理体験や生産現場の体験を通じて、食の構成要素や循環の意味がわかるようにする</li> </ul>

## 認証機関サーベイランス結果報告

【 2年次サーベイランスの結果〔結論〕 】2014年3月20日  
 組織のマネジメントシステムは規格要求事項に適合し有効に実施されていると判断し、認証の維持を推薦します。

【 ISO14001についてお問い合わせ先 】

**大学生協 中国・四国事業連合 環境管理事務局 まで**

松山事務所／井長 TEL:089-924-8089 / FAX:089-926-1893 E-mail: Kumiko.lcho@ma3.seikyoku.ne.jp  
 大阪事務所／朝日 TEL:06-4806-8901 / FAX:06-4806-8905 E-mail: k.asahi@chushi-bauc.or.jp